

福井の海を楽しむ（1）

夏 梅 晃 一

1 海のいきもの調査

環境庁は、一昨年「'90海のいきもの調査」を実施しました。この調査は、あらかじめ43種の海中にすむ魚類や海藻類、ヒトデなどを定め、全国から公募したボランティアダイバーの協力を得て一定の期間にどの生物を見たかを報告してもらい、これを集計しました。日本海側からは福井県の情報が最も多く、このことは、福井の海が、国内では沖縄、小笠原、伊豆に次いで人気が高いことをあらわしています。福井の海では、調査の対象になった43種のうち22種類と半分以上が記録されました。

つまり、福井の沿岸には、寒暖入り交じった豊富な生物がすんでいることが証明されたわけです。

2 海の美しさのPRを

福井県は、海の産物である越前ガニやウニ、おいしい魚などの味覚ばかりがPRされて、美しい海中のことがよく知られていないのが現状です。

今年開学した県立大学には海洋生物資源学科ができ、無人潜水艇まで開発しましたが、県民の海に対する関心はまだまだ低いと思います。県外の人の方が福井の海中のことを知っているというのは悲しいことです。

3 海の生き物たち

福井の磯で海に入ってみると、まず目につくのが、イシダイ、メジナ、ウミタナゴ、キュウセン、ホンペラなどの温帯種の魚です。色彩こそ地味ですが、群れで泳いでいる姿はなかなか壮観です。黒い横縞のイシダイの幼魚は、本当に人懐っこく、人をみつけると近寄ってきて愛嬌をふりまきます。

メジナは、真っ黒い魚で、幼魚の群れを交えたファミリーでよく泳いでいます。ウミタナゴは、卵胎生の魚として有名で、福井の磯で普通に見られるのはマタナゴです。

ベラの仲間でもっともポピュラーなのがキュウセンです。雌雄で体の色彩が異なり、圧倒的に雌をよく見かけます。これは、性転換をするためで、幼いうちはすべて雌なのです。

少し泳いで沖にでてみると、必ず見られるのは、スズメダイの群れ、季節によってはアジの大群、アオリイカの群れなどです。アジといえば、秋の小アジ釣りで知られていますが、銀色に輝く大群はなかなか美しいものです。

今度は少し素潜りしてみると、岩の間には、メバルの群れや、カサゴ、キジハタ、クロソイなど根つきの魚たちが私たちを迎えてくれます。

メバルはいつ会っても上を向いてボーッとしているおかしいやつで、ウミタナゴと同じ卵胎生の魚です。沿岸性の魚としては大型のカサゴやキジハタやクロソイは、なかなか魅力的な被写体で、写真を撮るのに近づくと、じろっと睨みかえしてくるものですから、い

つも、どきっとさせられます。

キジハタは、美味しい魚として有名だけでなく、体にちりばめられたオレンジ色の斑点が鮮やかで、温帯種の魚としては人目をひきます。これによく似た魚にノミノクチというハダ類がありますが、背中の斑点の数で見分けがつかます。

美しい魚といえば、キヌバリというハゼの仲間がいます。体長はせいぜい10cmぐらいまでの小さな魚ですが、この魚が面白いのは、日本海沿岸にいるものと太平洋沿岸にいるもので、黒い横縞の数が異なることです。日本海のもの1本多く7本というのも興味深いものです。

こうした温帯種の魚に囲まれているだけで、なんだかもすごく幸せな気分になります。

4 軍艦岩

昨年9月、越前町の沖合にある「軍艦岩」にスキューバダイビングで潜りました。この岩は、陸からアプローチしやすく、周囲では、暖海種の生物が高密度で見られます。現在、福井のダイビングスポットでも最も人気が高い場所です。この山側には、駐車場や小公園が整備されていますので、潜るのには好都合です。

私たちは、この場所でツノダシという暖海種を発見しました。この魚は、太平洋なら伊豆などで、決して珍しい魚ではありませんが、まさか福井の海にいるとは思っていなかったもので、本当に嬉しくなりました。

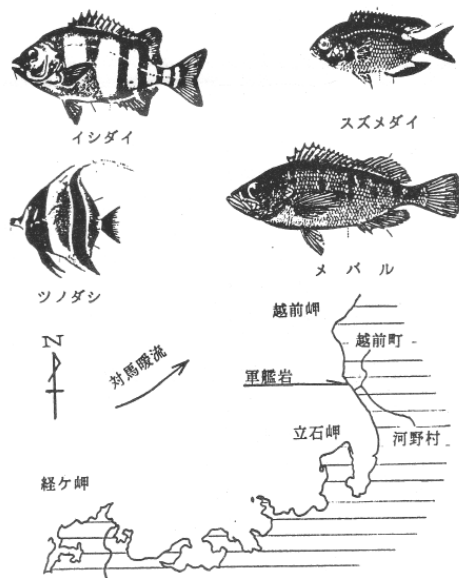
でも、疑問に思うのは、何故ここは、暖海の生き物がこれだけ高密度に見られるのか？ということです。

5 おわりに

皆さんは、残念ながら8月のお盆を過ぎるとほとんど海に入らなくなってしまおうでしょう。

ウェットスーツという便利なものを是非使ってください。スーツなしでは電気クラゲ（カツオノエボシ）がいるし、海中の岩肌にはシロガヤやクロガヤなどの刺胞動物が待ち構えています。今年の夏は美しい福井の海中の自然を楽しんでみてください。

次回は、シュノーケリングによる海中自然観察法についてご紹介します。



福井の海を楽しむ（2）

夏 梅 晃 一

1 シュノーケリング

マリンレジャーが大変普及し、一昔前までは夢のようだったボンベを背負っての海中散歩（スキューバダイビング）も、今では、暇とお金さえあれば3～4日の講習でライセンスを取得して、誰でも自由にできるようになりました。なのに、今更シュノーケリングなんてとは思わないでください。前回お話ししたような生き物たちは、危険性が高いスキューバダイビングでなくても、シュノーケリングで十分楽しめるのですから。

ご存知のように、シュノーケリングとは、シュノーケルとマスク（水中めがね、最近では近視用のレンズ入りマスクもあります）とフィン（足ひれ）の3点セットを使って、水面を遊泳することで、誰でも簡単にできるスポーツです。シュノーケルで呼吸を確保でき、顔を水につけたまま泳げることが海中観察に適しているのです。財団法人・海中公園センターは、もう何年も前から普及してきました。都道府県によっては（福井県も）シュノーケルを有害玩具に指定しているようですが、使い方を講習会などで教われば、決して危険な道具ではありません。

それと、有害な生物（8月のお盆の頃から9月が海中生物の豊富な時期ですが、この時期アンドクラグが沿岸に漂着してきます。）や水温から身を守るため、必ずウェットスーツを着用します。ウェットスーツは、厚手の生地の間隙を空気が満たしているため、これを着けると浮力がついて、どんな「かなづち」の人でも沈もうにも沈めません（つまり、浮き袋を着けているようなものです）。ですから、潜りたい場合はウェイト（おもり）をつけて潜るわけです。また、ウェットスーツを着ることで女性は肌を焼くことも防げます（顔はずっと水につけているのであまり焼けません）。

2 海中公園

みなさん、海中公園という言葉をご存知ですか？全く知らない方は、もしかしたら海の中に公園があるのかな？なんて思ってしまいそうですが、「きびたき自然の会」の皆さんは、福井にも三方海中公園という地区があることをご存知だと思います。

海中公園地区は、自然公園法に基づくもので、自

然公園区域内の沿岸海域で、透明度が良く、生物層が豊かな所について、これを保護し、海の自然学習等に利用できるように区域指定しているわけです。現在、全国で58ヶ所が指定されています。和歌山県の串本海中公園地区や千葉県勝浦海中公園地区などでは、海中展望塔を建設したりグラスボートを就航させたりすることで、誰もが直接海中の自然景観を楽しめるように工夫されています。

三方海中公園地区は、若狭湾国立公園内に指定された本県唯一の海中公園地区です。三方町の常神半島最先端部、烏辺島、食見海岸周辺の4海域が指定されています。ここでは、なんとサンゴが見られます。サンゴというと熱帯の海でしか見られないと思っ込んでいた方もあるかと思いますが、福井でも何種類かを見かけます。

三方海中公園で最もたくさん見られるのは、「ムツサンゴ」です。薄暗い洞窟のような所の、水深2～3mまでの岩の表面に群生しています。外見はインゲンチャクを小さくした（直径5mm前後）ような形で、鮮やかなオレンジ色が人目をひきます。このサンゴは変り種で、若狭湾から北海道の日本海側に見られるという北方系のサンゴです。最初に青森県の陸奥湾で発見されたため、この名がついているようです。

三方海中公園地区は、魚の種類も大変豊富です。特に、8月下旬から9月にかけて暖海種の魚が多くなってきます。鮮やかなブルーに輝くソラスズメダイやオヤビッチャ、キンチャクダイの幼魚などがその代表種です。

私は、2年前の9月中旬、常神で数百匹のソラスズメダイの群れに遭遇しました。一瞬、目の前が真っ青になったその美しさは、今でも目に焼き付いています。海の話をするときりがないので、これくらいにさせていただきます。とにかく皆さん、今年の夏は、福井の海中の自然を楽しんでみてください。8月29日、30日の両日には、三方町常神半島で県自然保護課と財団法人・海中公園センターが主催するマリンセミナーが開催されます。シュノーケリングによる海中の自然観察講習会です。参加してみたいかがでしょうか。



アンドクラグ



カゴカキダイ